



主催／公益社団法人 日本建築家協会 東北支部 共催／一般社団法人 日本建築学会 東北支部
後援：一般社団法人 秋田県建築士会・一般社団法人 秋田県建築士事務所協会
白井晟一シンポジウム

『旧雄勝町役場の存続を考える』

戦後日本を代表する建築家の一人、白井晟一
の設計した『旧雄勝町役場』が解体されよう
としております。

湯沢市内には初期の頃の作品がこの旧雄勝町
役場を含めて6作品残っており、この旧役場以
外は民間で所有されております。

老朽化による維持管理費の増大や耐震強度の
基準不足、隣接する文化会館の駐車場確保、何
度か増築が繰り返されたため建築当初から形が
変わってしまっていることも在り、解体する方
向で進んでおります。

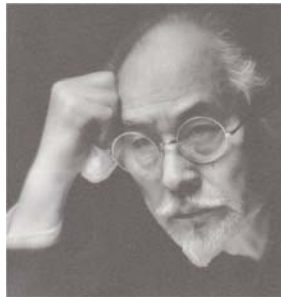
今後の保存・活用に関する提案、建物の運用
の方向性をまとめ、この『旧雄勝町役場』を含
む白井建築群が共に価値を高めながら、地域を
活性化させる方法を模索しなければなりません。

市民、近隣の住民の方々にも参加いただいて
保存・活用する意義をご理解いただき、地元・
地域の元気を掘り起こす議論を盛り上げるきつ
かけとしたいと考えております。

なお、今回のシンポジウムは、白井晟一に縁
のある或いは白井晟一作品の研究家など、建築
家・白井晟一を知り尽くした精鋭の皆様を講師
にお迎えいたします。



建築家 白井晟一



- 1905 (明治 38) 年 京都に生まれる。
- 1924 (大正 13) 年 京都高等工芸学校 (現・京都工芸繊維大学) 図案科に入学、建築を勉強し、卒業後の昭和3年にドイツに留学、昭和8年に帰国する。
- 1936 (昭和 11) 年 義兄・近藤浩一路郎を設計、初の装丁、山本有三の『真実一路』を手がける。
- 1937 (昭和 12) 年 戦前の代表作『歌仙荘』を設計する。
- 1951 (昭和 26) 年 建築家として本格的な活動を開始、香深い村に建設された「秋ノ宮村役場」は、ビル建設ブームに巻き返る戦後の建築界に「民衆のための建築」とは何かを問いかけた。
- 1955 (昭和 30) 年 後の白井作品の基本理念を体現した『原簿室計画』を発表。建築ジャーナリズムを通して、大きな問題を投げかけ続ける。翌年に発表されたエッセイ「織文なるもの」における「友よそんな調子でなく、もっと力強い調子で」ということばは、蓮山の「江川邸」をモチーフとして、日本の建築思潮にわけられた白井の呼びかけともたらえられる。
- 1960 (昭和 35) 年 戦後初めてのヨーロッパ旅行、帰国後、幼少期に習得した書を再開する。
- 1962 (昭和 37) 年 中公新書の装丁を手がける。
- 1963 (昭和 38) 年 この年以降 1975 年まで、親和銀行本・支店 (東京、長崎、佐世保) を手がけ、建築学会賞などを受賞する。またこの間の建築作品の多くが、建築ジャーナリズムに取りあげられる。
- 1979 (昭和 54) 年 自らの装丁によるエッセイ集『無窓』刊行。
- 1980 (昭和 55) 年 日本芸術院賞受賞
- 1983 (昭和 58) 年 78 歳で逝去。遺作は『雲伴居』。

(敬称略)

講師：松隈 洋 (京都工芸繊維大学 教授)
講師：崎山 俊雄 (東北学院大学 准教授)
講師：安原 盛彦 (元秋田県立大学 教授)

講師：白井 原太 (白井晟一建築研究所)
講師：兼松 紘一郎 (兼松設計 日本建築家協会 元本部理事)

2016 年 6 月 11 日 (土) 15:00 ~ 18:00

会場：湯沢市役所市民ホール 1 階 市民ホール

湯沢市佐竹町 1-1 TEL : 0183-73-2111

懇親会 18 時 30 分~21 時 会場：神楽 (居酒屋) 会費：4,500 円

講演会
参加費無料!
free to join

The Japan Institute of Architects
公益社団法人 日本建築家協会
J I A 東 北 支 部
事務局 宮城県仙台市青葉区一番町 4 丁目 1-1

お問合せ、事前申し込みは
022-225-1120 (tel)
022-213-2077 (fax)

日本建築家協会 (JIA) は建築家が集う公益社団法人です。
プロフェッショナルとしての知恵と技術を活かし、地域、文化、風土、
地球環境までをデザインする建築家。
私たちは、建築・まちづくりを通して社会公共に貢献する活動をしています。